

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年1月14日

【四半期会計期間】 第17期第3四半期(自 2019年9月1日 至 2019年11月30日)

【会社名】 株式会社アークコア

【英訳名】 ArkCore, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 正 渡 康 弘

【本店の所在の場所】 東京都足立区椿二丁目2番2号

【電話番号】 03(5837)3611(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 土 屋 勉

【最寄りの連絡場所】 東京都足立区椿二丁目2番2号

【電話番号】 03(5837)3611(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 土 屋 勉

【縦覧に供する場所】 株式会社名古屋証券取引所
(愛知県名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第16期 第3四半期 連結累計期間	第17期 第3四半期 連結累計期間	第16期
会計期間		自 2018年3月1日 至 2018年11月30日	自 2019年3月1日 至 2019年11月30日	自 2018年3月1日 至 2019年2月28日
売上高	(千円)	1,923,821	1,953,980	2,661,405
経常利益	(千円)	55,898	88,887	106,573
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	(千円)	28,589	57,438	88,116
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	28,589	57,438	88,116
純資産額	(千円)	133,374	297,339	239,901
総資産額	(千円)	818,837	1,246,243	889,770
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	17.48	32.34	52.99
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	16.73	30.86	50.61
自己資本比率	(%)	16.17	23.78	26.85
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	63,883	13,339	228,574
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	29,427	22,165	55,655
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	230,694	313,829	324,439
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	226,326	576,047	271,043

回次		第16期 第3四半期 連結会計期間	第17期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 2018年9月1日 至 2018年11月30日	自 2019年9月1日 至 2019年11月30日
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失()	(円)	6.66	7.85

(注) 1. 四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

（1）経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、2019年7-9月期のGDP実質成長率は、4四半期連続でプラスとなりましたが、台風等の自然災害が相次いだため、災害からの復旧が進んでいるものの今後のわが国経済に影響を与える可能性があります。企業収益は、製造業での減益割合が大きくなっておりませんが、雇用情勢は有効求人倍率は高水準を維持し、完全失業率は低水準にあります。一方、個人消費は、消費税率の改定後、小売業の販売額が減少しております。

当社グループの事業セグメントは、バイク事業、フィットネス事業となっており、前連結会計年度から開始したゴルフスクール事業はフィットネス事業に含めております。当第3四半期連結累計期間における事業別のセグメントの業績は次のとおりであります。

（バイク事業）

当社のバイク買取台数は7,156台（前年同期比10.2%減）、販売台数は6,820台（前年同期比10.9%減）となりました。台数は減少しましたが、業者間オークションに出品した車両の落札単価が増加したこと及び当社小売店での販売が好調だったことから、販売単価は前年同期比12%増、粗利単価は同16%増となりました。その結果、売上総利益は前年同期比3.3%増となりました。また、取扱台数の減少により、広告費及び業者間オークションへの出品等に係る手数料は前年同期比で減少したことから、販売費及び一般管理費は前年同期比4.1%減少しました。

バイク事業の当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,575百万円（前年同期比0.7%減）、セグメント利益18百万円（前年同期はセグメント損失21百万円）となりました。

（フィットネス事業）

当第3四半期連結会計期間末日時点でのエニタイムフィットネス店舗数は前年同期末と同じ5店舗であります。また、2018年11月から開始したステップゴルフ店舗数は2店舗であります。エニタイムフィットネス及びステップゴルフ各店舗の会員数は引き続き堅調に推移しており、売上高は増加しましたが、ステップゴルフの出店に伴う人件費及び地代家賃が増加に伴い、販売費及び一般管理費は前年同期比18.7%増となったため、セグメント利益は減少しました。

フィットネス事業の当第3四半期連結累計期間の業績は売上高378百万円（前年同期比12.2%増）、セグメント利益77百万円（前年同期比0.4%減）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は売上高1,953百万円（前年同期比1.6%増）、営業利益95百万円（前年同期比70.7%増）、経常利益88百万円（前年同期比59.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益57百万円（前年同期比100.9%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末において総資産は1,246百万円となり、前連結会計年度末と比較して356百万円増加しました。主な要因としては、金融機関からの借入れ及び社債の発行により現金及び預金が306百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末において負債は948百万円となり、前連結会計年度末と比較して299百万円増加しました。主な要因としては、短期借入金が37百万円、1年内返済予定の長期借入金を含む長期借入金が86百万円、1年内償還予定の社債を含む社債が200百万円、それぞれ増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末において純資産は297百万円となり、前連結会計年度末と比較して57百万円増加しております。主な要因としては、親会社株主に帰属する四半期純利益57百万円を計上したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物は576百万円（前年同期は226百万円）となっております。当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は13百万円（前年同期は同63百万円）となりました。主な要因としては、得られた資金では税金等調整前四半期純利益88百万円及び減価償却費32百万円の計上によるもの、支出した資金ではたな卸資産の増加額95百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、支出した資金は22百万円（前年同期は同29百万円）となりました。主な要因としては、支出した資金ではステップゴルフFC店の出店等に伴う有形固定資産の取得による支出28百万円、得られた資金では差入保証金の回収による収入9百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、得られた資金は313百万円（前年同期は支出した資金230百万円）となりました。主な要因としては、得られた資金では社債の発行による収入192百万円、長期借入れによる収入295百万円、短期借入れによる収入50百万円、支出した資金では長期借入金の返済による支出208百万円、短期借入金の返済による支出12百万円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当社は、当社グループの経営資源の集中、有効活用を図るとともに経営の効率化を図ることを目的として、2019年10月25日開催の取締役会において、当社完全子会社の株式会社アーコアライフ（東京都足立区、資本金50百万円、代表取締役正渡康弘）を吸収合併することを決議し、同日付で吸収合併契約を締結しました。

詳細は、『第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項』の重要な後発事象をご参照ください。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	7,880,000
計	7,880,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (2020年1月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,970,000	1,970,000	名古屋証券取引所 (セントレックス)	単元株式数は100株でありま す。
計	1,970,000	1,970,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年11月30日		1,970,000		232,825		

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 193,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,776,100	17,761	
単元未満株式	普通株式 300		
発行済株式総数	1,970,000		
総株主の議決権		17,761	

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年8月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

2019年11月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アークコア	東京都足立区椿 二丁目2番2号	193,600		193,600	9.83
計		193,600		193,600	9.83

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間までの役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していません。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年9月1日から2019年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年3月1日から2019年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人コスモスによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	273,443	579,797
売掛金	51,684	55,681
商品	139,460	235,888
貯蔵品	3,180	2,743
その他	46,765	42,485
流動資産合計	514,534	916,596
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	127,186	127,749
その他(純額)	23,443	30,521
有形固定資産合計	150,629	158,270
無形固定資産		
のれん	11,618	9,751
その他	4,714	3,059
無形固定資産合計	16,332	12,810
投資その他の資産	208,274	158,565
固定資産合計	375,236	329,646
資産合計	889,770	1,246,243
負債の部		
流動負債		
買掛金	7,647	6,621
短期借入金	-	37,499
1年内償還予定の社債	-	40,000
1年内返済予定の長期借入金	261,730	262,170
未払法人税等	13,586	3,040
賞与引当金	4,289	3,408
その他	117,678	99,908
流動負債合計	404,931	452,647
固定負債		
社債	-	160,000
長期借入金	237,956	323,933
その他	6,981	12,322
固定負債合計	244,937	496,255
負債合計	649,868	948,903
純資産の部		
株主資本		
資本金	232,825	232,825
資本剰余金	266,598	266,598
利益剰余金	186,663	129,225
自己株式	73,858	73,858
株主資本合計	238,901	296,339
新株予約権	1,000	1,000
純資産合計	239,901	297,339
負債純資産合計	889,770	1,246,243

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年11月30日)
売上高	1,923,821	1,953,980
売上原価	968,936	944,060
売上総利益	954,885	1,009,920
販売費及び一般管理費	898,838	914,247
営業利益	56,046	95,672
営業外収益		
受取手数料	3,652	4,603
助成金収入	-	1,140
雑収入	3,883	1,941
その他	139	24
営業外収益合計	7,674	7,709
営業外費用		
支払利息	6,936	6,425
社債発行費	-	7,817
訴訟関連費用	871	-
その他	15	252
営業外費用合計	7,823	14,495
経常利益	55,898	88,887
税金等調整前四半期純利益	55,898	88,887
法人税、住民税及び事業税	2,023	6,714
法人税等調整額	25,284	24,734
法人税等合計	27,308	31,449
四半期純利益	28,589	57,438
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	28,589	57,438

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
四半期純利益	28,589	57,438
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	-	-
四半期包括利益	28,589	57,438
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	28,589	57,438
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	55,898	88,887
減価償却費	43,674	32,861
のれん償却額	207	1,867
株式報酬費用	6,135	13,184
賞与引当金の増減額(は減少)	548	881
受取利息及び受取配当金	24	24
支払利息	6,936	6,425
社債発行費	-	7,817
売上債権の増減額(は増加)	14,211	3,996
たな卸資産の増減額(は増加)	63,296	95,991
仕入債務の増減額(は減少)	2,901	1,025
その他の流動資産の増減額(は増加)	4,521	3,723
その他の流動負債の増減額(は減少)	457	20,155
その他	2,297	1,399
小計	73,552	34,092
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	6,527	6,028
法人税等の支払額	3,143	14,726
営業活動によるキャッシュ・フロー	63,883	13,339
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,350	1,350
有形固定資産の取得による支出	10,714	28,888
差入保証金の回収による収入	5,761	9,240
差入保証金の差入による支出	2,624	1,167
事業譲受による支出	15,000	-
その他の支出	5,500	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	29,427	22,165
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	-	50,000
短期借入金の返済による支出	-	12,501
長期借入れによる収入	-	295,000
長期借入金の返済による支出	272,387	208,583
社債の発行による収入	-	192,182
自己株式の売却による収入	41,839	-
自己株式の取得による支出	42	-
配当金の支払額	105	15
ファイナンス・リース債務の返済による支出	-	956
割賦債務の返済による支出	-	1,297
財務活動によるキャッシュ・フロー	230,694	313,829
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	196,238	305,003
現金及び現金同等物の期首残高	422,565	271,043
現金及び現金同等物の四半期末残高	226,326	576,047

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に当たり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
広告宣伝費	102,569千円	96,502千円
給与手当	234,077千円	241,104千円
賞与引当金繰入額	2,311千円	3,408千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
現金及び預金	228,276千円	579,797千円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,950千円	3,750千円
現金及び現金同等物	226,326千円	576,047千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

2018年5月1日及び6月13日付けでAK Capital株式会社が新株予約権を行使したことにより、当社は自己株式115,900株の処分を行っております。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が1,913千円、自己株式が44,194千円減少しております。当第3四半期連結会計期間末における資本剰余金は257,730千円、自己株式は111,990千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		四半期連結損益計算書計上額(注)
	バイク事業	フィットネス事業	
売上高	1,586,900	336,920	1,923,821
セグメント利益又はセグメント損失()	21,591	77,637	56,046

(注) 1 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2 当第3四半期連結会計期間において、新規事業としてゴルフスクール事業を開始しております。当該事業は株式会社アークコアライフが運営・管理するため、「フィットネス事業」に含めております。これによる影響は軽微であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		調整額	合計(注)
	バイク事業	フィットネス事業		
売上高				
外部顧客への売上高	1,575,815	378,165	-	1,953,980
セグメント間の内部売上高又は振替高	6,750	-	6,750	-
計	1,582,565	378,165	6,750	1,953,980
セグメント利益	18,368	77,304	-	95,672

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	17.48円	32.34円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	28,589	57,438
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	28,589	57,438
普通株式の期中平均株式数(株)	1,635,665	1,776,333
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	16.73円	30.86円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	73,529	84,802
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

(完全子会社の吸収合併)

当社は、2019年10月25日開催の取締役会において、当社の完全子会社である株式会社アークコアライフを吸収合併することを決議し、同日付けで吸収合併契約を締結し、2020年1月1日付けで吸収合併いたしました。

1. 企業結合の概要

結合当事企業の名称及びその事業の内容

(吸収合併存続会社)

名称 株式会社アークコア
事業の内容 中古バイク買取販売

(吸収合併消滅会社)

名称 株式会社アークコアライフ
事業の内容 スポーツ施設の経営

企業結合日

2020年1月1日

企業結合の法的形式

当社を存続会社とし、株式会社アークコアライフを消滅会社とする吸収合併方式であり、株式会社アークコアライフは本合併終了後に解散いたします。

企業結合に係る割当ての内容

当社は、株式会社アークコアライフの全株式を保有しているため、本合併による新株式の発行、資本金の増加及び合併交付金、その他一切の対価の交付はありません。

企業結合後の名称

株式会社アークコア

取引の目的を含む取引の概要

経営資源の集約・効率的な組織運営を図るため、同社を吸収合併することといたしました。

2. 会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2013年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2013年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を実施する予定であります。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年1月10日

株式会社アークコア
取締役会 御中

監査法人コスモス

代表社員
業務執行社員 公認会計士 富 田 昌 樹 印

業務執行社員 公認会計士 相 羽 美 香 子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アークコアの2019年3月1日から2020年2月29日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年9月1日から2019年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年3月1日から2019年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アークコア及び連結子会社の2019年11月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。